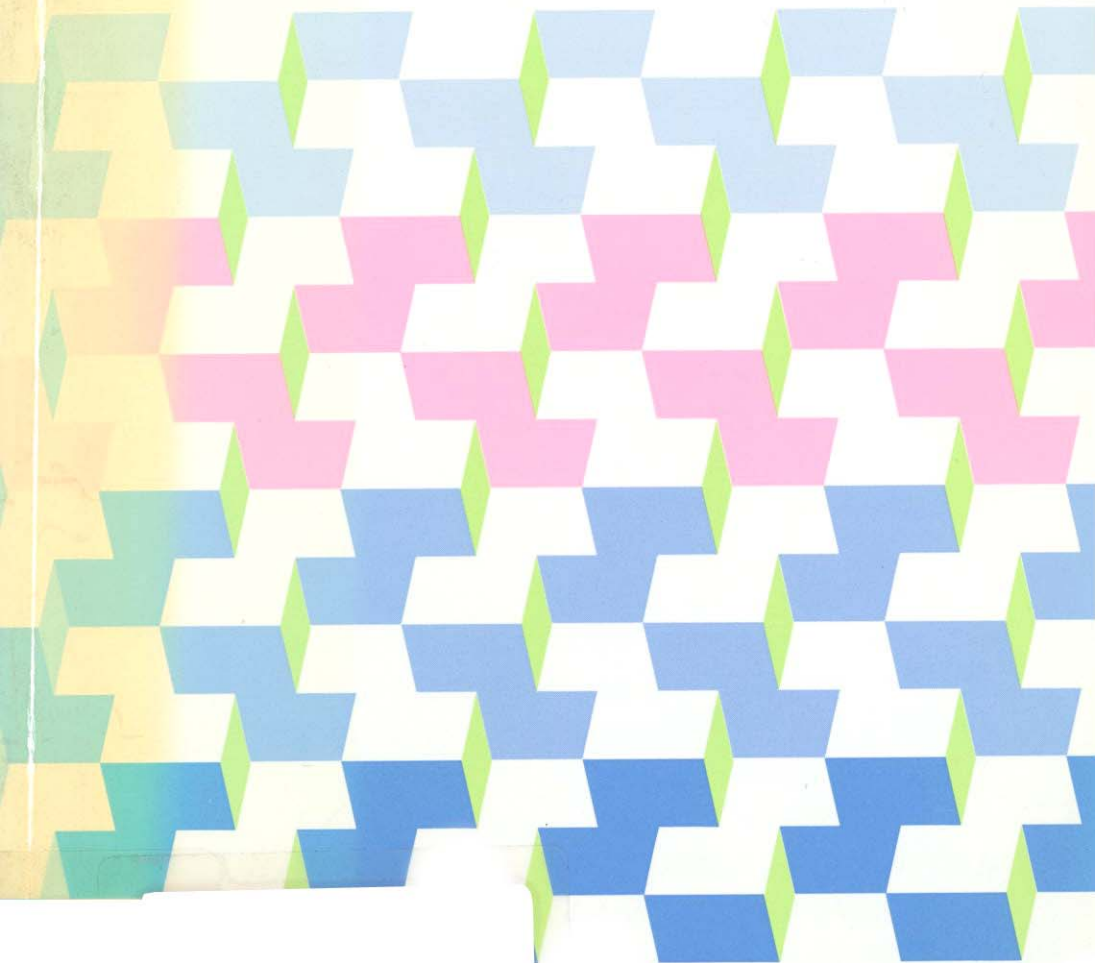


建設現場における

# OJTマニュアル



建設現場におけるOJTマニュアル ■ 目 次

はじめに..... 1

1. このマニュアルの役割..... 2

2. OJTとは..... 4

3. OJTの進め方..... 11

4. 社内におけるOJTの取り組み方【OJT実施体制づくり】..... 24

5. 現場におけるOJTの進め方..... 29

資料★業種別技能レベル・個人別OJT実施計画表事例..... 37

イラスト ●..... 玉田義雄

# はじめに

OJTは、日常の仕事を通して、作業員の能力開発を行うもの

「企業は人なり」といわれるように、企業における人材の養成は最も重要な課題の一つです。

建設業においても厳しい経営環境に対応するために、経営体制の改善、生産性の向上等を図るうえで企業内の人材養成を積極的に進める必要があることはいうまでもありません。

しかしながら、建設業においては建設現場の移動性という特性もあって、作業員に対する教育訓練は十分とはいえない現状にあります。短期間に技能を修得させざるを得ないという状況にあることも事実です。

そこで、このマニュアルでは、教育訓練方法のなかでも、特に建設現場における作業員の指導教育に最も適していると思われるOJT (on the job training) 教育の手法を示すことによって、日常の仕事を通して、主として職場の長である職長が、作業員の能力開発を行おうとするものです。

OJTとは、一言でいうならば、職場の上司が部下育成のために日常の仕事を通して行う指導・教育のことです。

OJT教育については、指導される方々はこれから新たに取り組まなければならない教育として意識するのではなく、仕事を通じて従来からなんらかの形で行われている指導をより充実させるための手段として意識し、このマニュアルを活用してください。

このマニュアルは、建設現場で指導される方々に読んでいただくばかりでなく、経営トップの方々にも目を通していただき、OJT教育の重要性を認識し、社内の指導・教育に役立てていただければ幸いです。

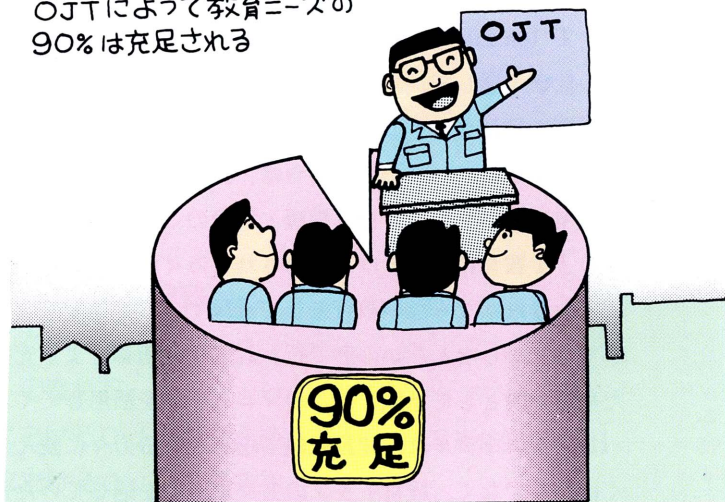
# 1. このマニュアルの役割

このマニュアルを参考にして部下にあった指導をすることが大切

OJTの指導・教育に関するマニュアルは種々出されていますが、ここでは現場等で使いやすいように、項目ごとにポイントだけ取り出し、イラスト等を入れることにより分かりやすくできるだけコンパクトにしています。このマニュアルは、主として現場において、職長等が部下に対し指導・教育する際の手引書として使っていただくものです。

一般に建設現場といっても、規模、工種、期間等それぞれ異なり、それらすべてにこのマニュアルが対応できるというものではありません。あくまでもこのマニュアルを参考にして、部下にあった指導をすることが大切です。

OJTによって教育ニーズの  
90%は充足される



79



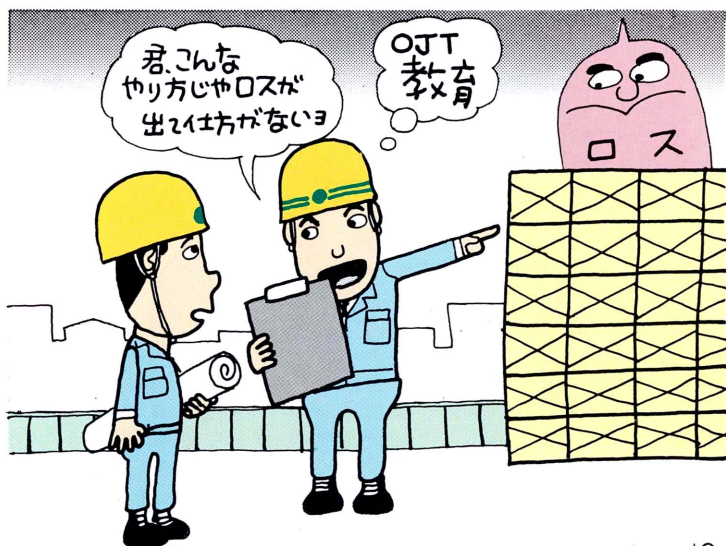
本稿では、まず「OJTとは」から始まり、OJTの基本的考え方、進め方等について標準的なものを示し、さらに、社内および現場においての具体的進め方について個人別OJT実施計画表や業種別技能レベルを活用した指導方法について示してあります。

したがって指導される方々は、まずOJTに対する認識を2、3章で修得し、さらに社内および現場におけるOJTの進め方を4、5章に照らしながらそれぞれの現場の実情に応じた方法に編成し、実務に即し最も効果のあがり得るよう創意工夫して活用することが必要です。

## 2. OJTとは

日常の仕事を通して行う指導・教育のこと

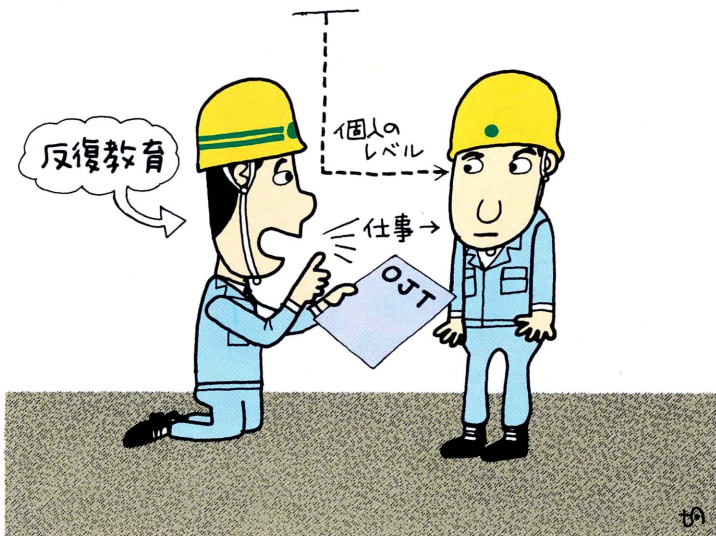
OJTとは、職場の上司が部下育成のために、日常の仕事を通して行う指導・教育のことです。



## ① 特 質

OJTは、日常の仕事を離れて行われる集合研修・教育と異なり、次のような特質があります。

- ・上司と部下のマンツーマン教育であるので、**部下の知識、技能、態度のレベルにあわせた教育**ができます。
- ・**仕事に直結**した実務的な教育です。
- ・同一職場内での教育であるので、**計画的、継続的にできる教育**です。したがって、反復教育ができ、フォローアップに有効です。

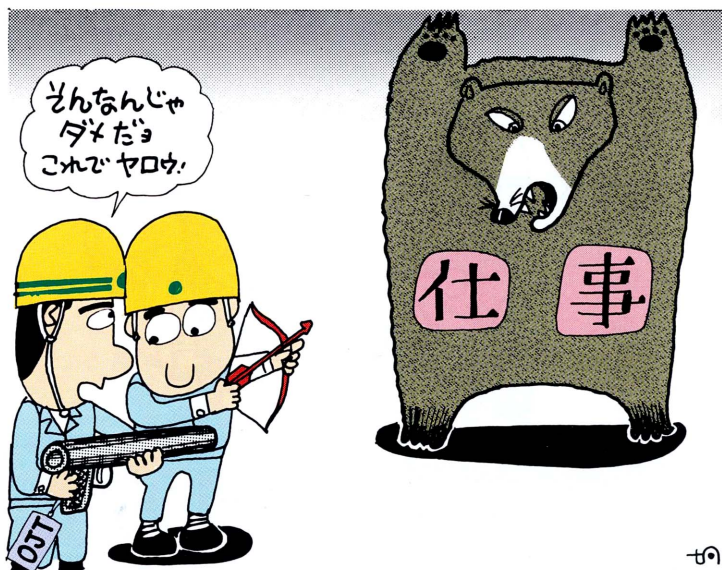


## ② 意義

OJT教育の意義は、数多くありますが、基本的なものは以下に示すとおりです。

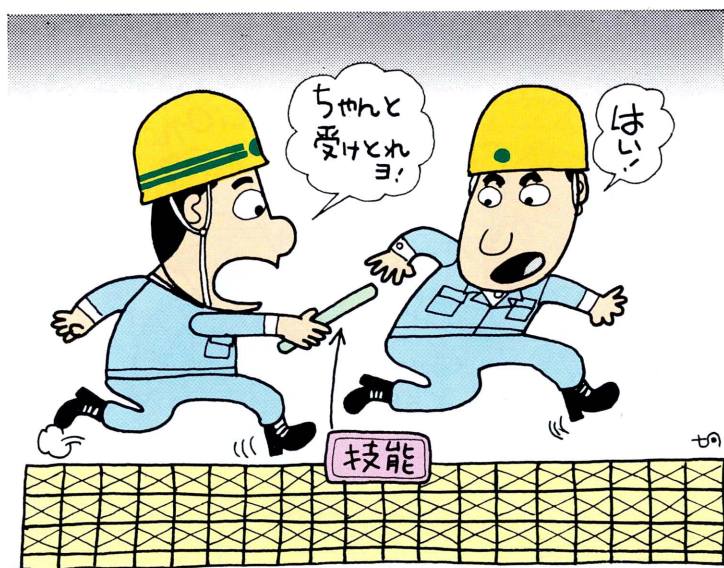
- ・ 職長にとって部下の指導育成は重要な任務の一つであり、OJTはその有効な手段である。

一般に、職長は部下をリードして、課せられた仕事を予定通り完成させることはいうまでもありませんが、さらにその仕事を予定された標準以上に仕上げるのが期待されています。そのため、職長は部下の仕事遂行能力を高める必要がありますが、OJTはその仕事に密着した実践的な指導・教育ができる有効な手段といえます。



- ・ O J T は企業や職場の知識、技能等を伝承できる。

O J T によって部下、後輩を指導・教育する内容は、その企業や職場が永年にわたって築き上げた知識、技能等のノウハウです。これを企業の財産として伝承し、育て上げていくことができます。



- ・ O J T は職場内コミュニケーションの場として機能する。

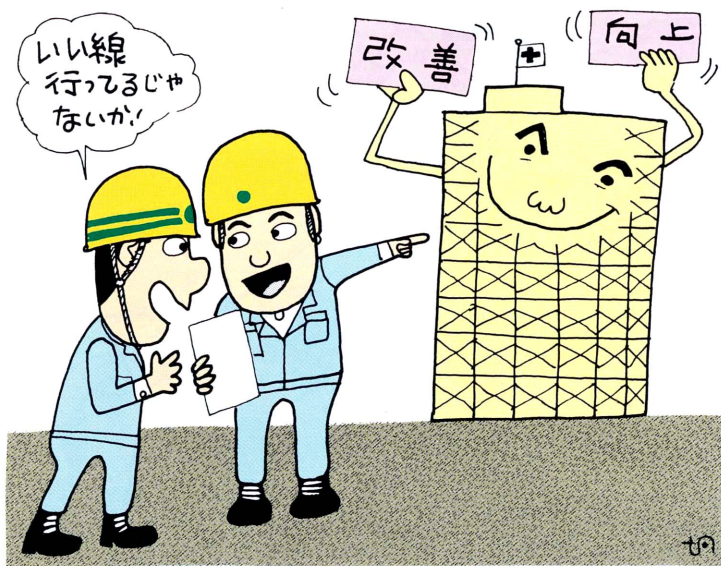
O J Tを進める過程で、職長と部下との間では一定の話し合いの場が持たれ、これによりコミュニケーションを図れることになり、部下との信頼関係が深まり、ひいては職場に良好な環境をかもしだす等の効果も期待されます。





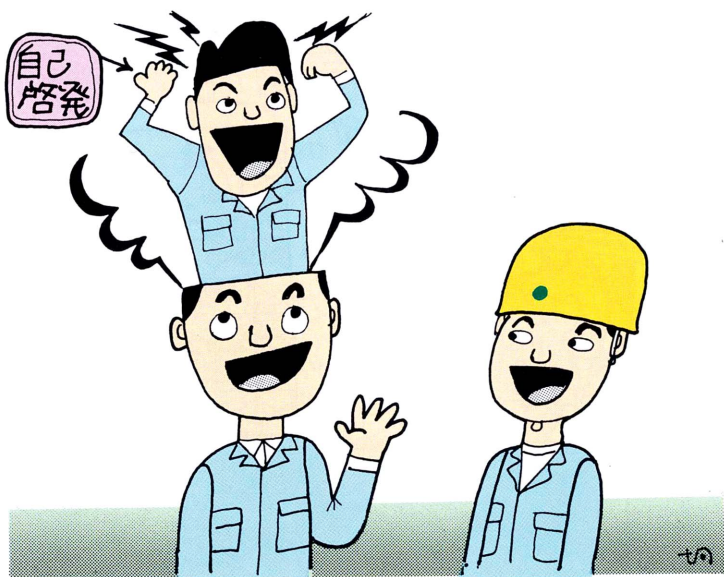
・OJTは仕事の改善向上につながる。

OJTにより部下の指導・教育を行う場合、多くは仕事の標準化が前提条件となります。そのため、仕事の見直し作業が必要となり、ひいてはこれが仕事の改善向上につながるが多いものです。



- ・ O J Tは職長自身の能力開発に結びつく。

職長は指導・教育し得る能力を持たなければならないのは当然です。もし、仮にその能力が十分でない場合は自己能力のレベルアップを図らなければならないし、また、能力があったとしても O J Tを進めていく過程で職長自身の自己啓発にもなり、それが部下の自己啓発の意欲を喚起することにもなります。



# 3. OJTの進め方

相手に何をどの程度教えるのか把握したうえで指導することがポイント

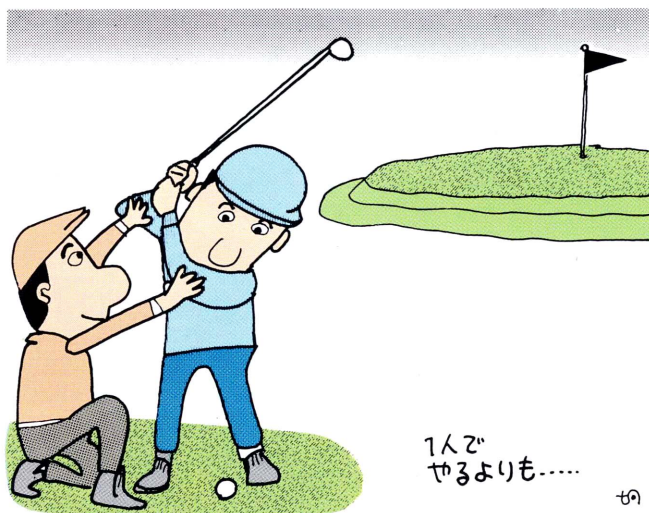
## ①教育二一ズの把握

OJTを進める上で、重要なポイントは、教える相手に対して、何をどの程度教えるのか把握した上で指導することです。

教える側が、何を教えていいのか分かっていなければ、教わるほうも、意欲がわくはずがありません。

人は、もともと繰り返しやるということにより学んでいるものであり、独力で学ぶことも可能です。しかし一人でやるよりも、その道のベテランから教わったほうが早く、スムーズに覚えることができます。独力でやった場合、間違った我流のやり方を覚える場合もありますし、時間がかかるという問題もあります。

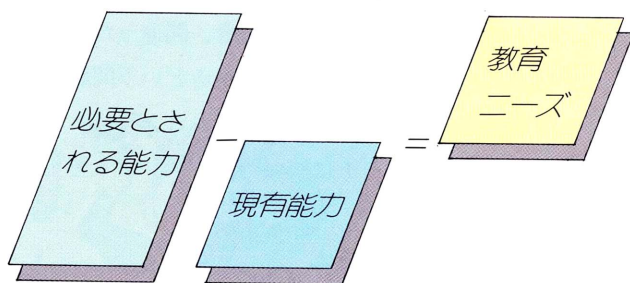
ゴルフの場合を例にとっても分かるように、一人で練習を重ねるよりは優秀なコーチについたほうが、ずっと上達が早いのも同じことです。



職長の役割は、相手が早く、確実に学ぶことができるように十分な配慮をし、必要としている事柄を指導することです。

教育ニーズの把握の仕方については、下図に示すとおりです。

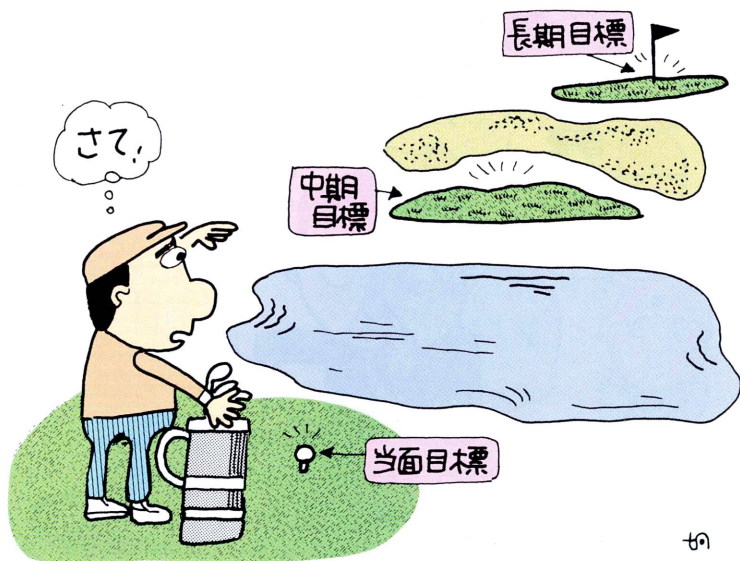
教育ニーズの把握の仕方



## ②教育目標の 設定

個々の教育ニーズをつかんだら、次は教育目標の設定です。

ニーズのうち**どの内容**を、**いつまでに**教えるのか。例えば、仕事の難易度等を踏まえて、当面、中期、長期といった具合に段階に分けて目標掲げる必要があります。



### ③教育計画

教育ニーズ、教育目標を設定したら、それを充足するための教育訓練計画を作るのが、その次のステップです。

教育訓練計画の立て方は次のとおりです。

- ・対象者の目標となる内容の設定
- ・実施期間の設定（年、期、四半期、月等）
- ・教育項目（課題、課目、件名）についてどのような指導・教育を行うか。
- ・計画表の作成（5章・個人別OJT実施計画表参照）

これらの教育訓練計画にそって、それぞれ個別の指導をすることが必要です。





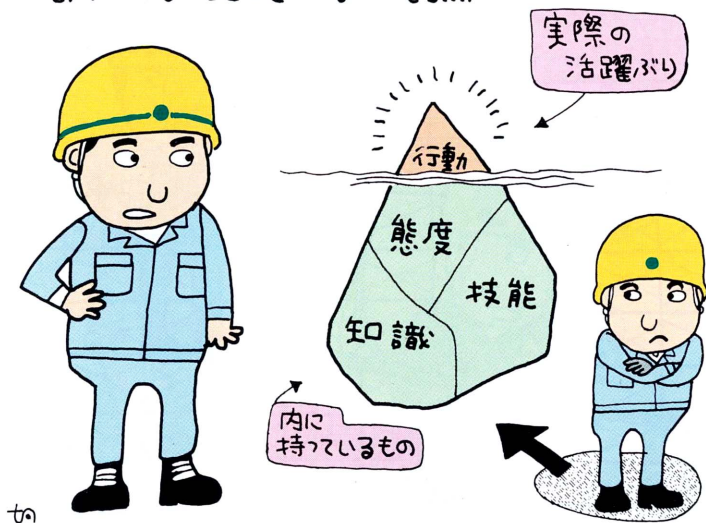
#### ④指導の方法

何を、どの程度、いつまでに身につけさせるかが決まったら、次にやらなければならないのは、**どのようにして、それを身につけさせるかの手段**を講じることです。この場合、頭に入れておかなければならないのは、**人間の行動が、知識、技能、態度の三つの要因に支えられている**ということです。三つに分けて考える理由は、それぞれについて教育の仕方や身につけ方が違うからです。

もし、部下が、やるべきことをやらなかったり、やれなかったときは、知識が不十分なためか技能不足のためか、態度に問題があったのか見きわめる必要があります。

具体的な指導方法については次ページ以降に示すとおりです。

部下がやるべきことをやらなかったら....

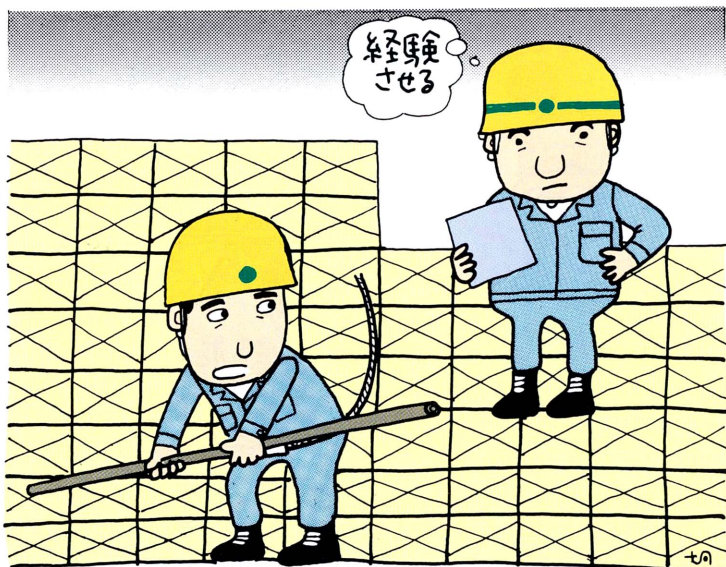


70

▶仕事の与え方◀ **育成計画の中心は仕事の与え方にある**といわれています。

同じ職場であっても、職長次第で職場の能率や成績のみならず、部下の成長の仕方も微妙に違ってきます。その原因は、なんといっても教育の計画に密着した仕事の分担のさせ方にあります。手なれた仕事をいつまでもやらせたり、なにごとにも自分が決めて部下にそのとおりにやらせるようにしていたら、部下は伸びません。部下を伸ばし、育てるためには、部下がある仕事をマスターしたら、ステップを踏んで、また別の種類の仕事をやらせると同時に、同じ仕事をやらせるにしても、部下に判断をまかせ、自由に腕をふるわせるようにしなければならないのです。

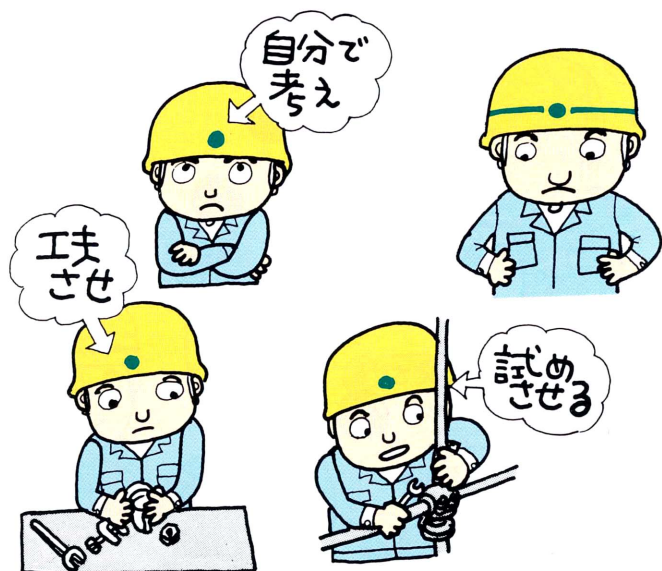
そこで重要なポイントは、部下を伸ばすために職長は、**どんな仕事を経験させるかを、常に考えておくこと**です。



▶仕事の進行中  
の指導の仕方◀

仕事の進行中の指導の仕方の基本は、部下に力をつけ、育てるために部下自身に考えさせることです。そこで**タイミングと時を得た助言を与えること**が最も効果的といえます。

ここで一つ注意しなければならないのは、部下を指導するということは、指示どおりにやらせることではなく、自分で考え、工夫させ、それを試させることです。決して教えてやるという態度でのぞむべきではなく、教わるものが、仕事を修得するのを、温かくバックアップしてやるという気持ちで接するべきです。こうしたあり方の結果として、部下が意欲を起こすことになるのです。



79

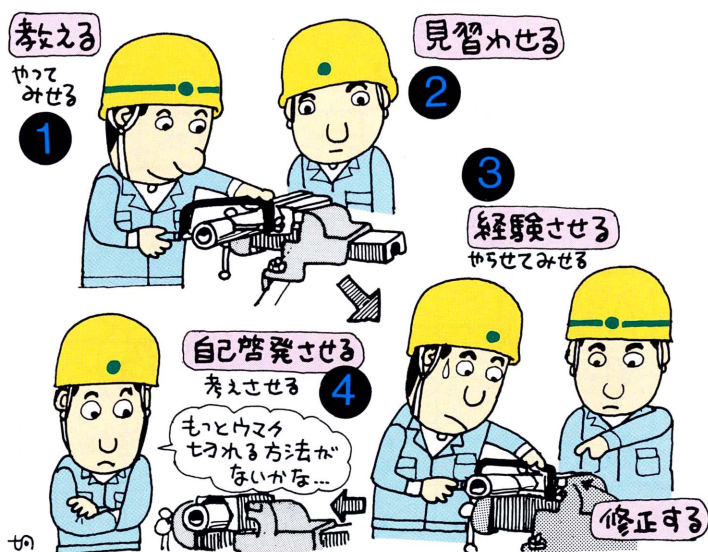
部下の能力等を向上させる基本的な方法は、およそ次のように大別することができます。

教える

見習わせる

経験させる

自己啓発を行わせる



## 教える

この方法は、最も直接的な方法です。

教える→やってみせる→やらせてみる→修正する  
といったことを繰り返すことが大切です。

## 見習わせる

職長が模範を示して、それを見習わせ、あるいは気付かせる方法です。

直接教える場合にも、その過程で職長がやってみせて見習わせることが効果的です。

## 経験させる

経験は、人間の成長に極めて大きな影響を及ぼすもので、いわば成長の原点といえるものです。

## 自己啓発を行わせる

部下を自己啓発へと動機付けし、部下が進んで啓発に励むようになることが部下の指導・育成の基本であり、最も重要なものです。

職場における指導の機会と基本的な指導方法を次ページのとお  
り一覧にしてあります。



## 職場における指導の機会と指導方法

[illegible]

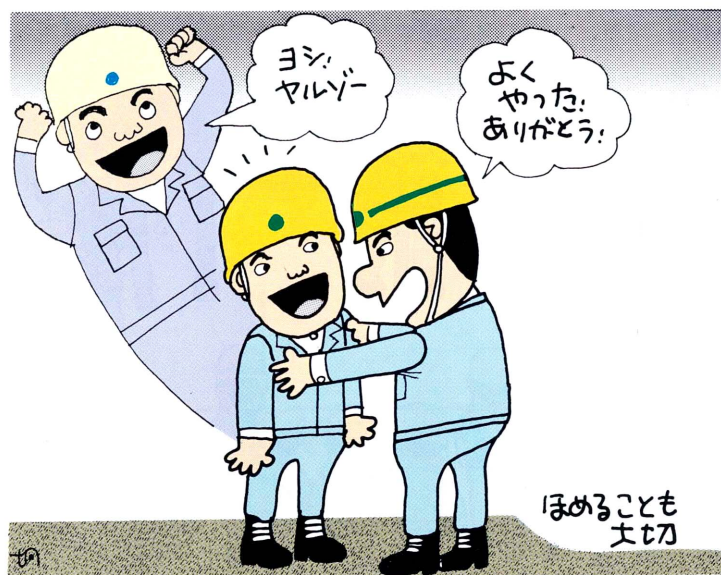


▶ 結果の評価の仕方、ほめ方、叱り方 ◀

部下を指導した後に見落としとしてはならないのは、**部下自身のため、部下を育てるために評価する**ということです。

評価の仕方にもいろいろありますが、一つは、ほめることです。特に自信のない部下に対しては有効です。ほめ方にもいろいろあり、面と向かってほめる方法もありますが、職場の他の人達、特に他の職長に、その部下がいかにも能力をPRしたり、その他に高く評価していることが分かるような高度の仕事につかせることも一つの方法です。

もう一つは叱るという方法です。その場合、部下の短所よりも長所に目を向け、長所を生かすのに必要な範囲で短所の是正を考えること。また、この部下をどう育てるのかについて、職長なりのかなり具体的なイメージをもって叱るというように、絶えず育成という観点から部下を見ていて、叱るべきときは叱るということです。



▶仕事以外の啓発  
機会の作り方◀

職場で可能な能力開発には限度があるため、それを仕事以外で自己啓発をさせる工夫が必要となります。基本的に考えなければならないのは、部下一人一人の潜在能力、特に得手を発揮させる場を作り出すことであり、隠された才能の芽を見つけ出し、育てていくことも、特に相手が若い場合には、大事なことです。

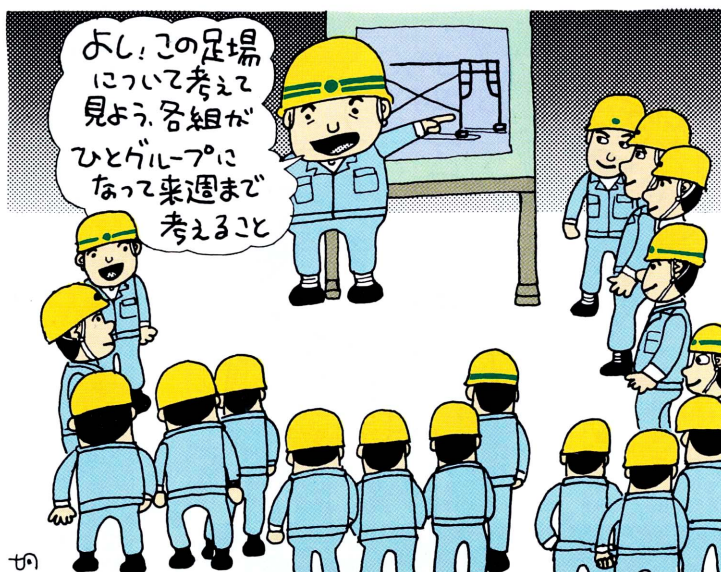
仕事以外の啓発機会の作り方としては、次のようなものがあります。

宿題、問題の  
投げかけ

「この作業をうまくやるにはどうしたらよいか」等の問題を投げかけてやること。

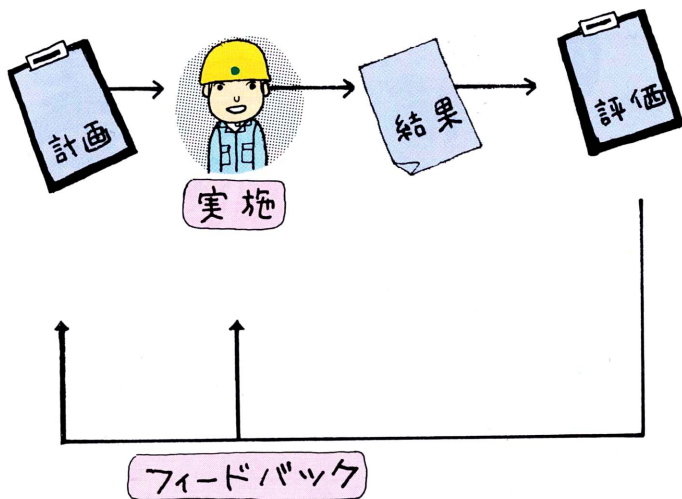
グループで研究  
させる

部下にグループ単位で研究させ、その成果について指導する方法。



⑤指導・教育成  
果の評価、フ  
ォローアップ

指導した後の評価の仕方については、④の「結果の評価の仕方、ほめ方、叱り方」(21ページ)で述べたとおりです。指導には、計画から評価まで一連の流れがあり、指導する者は、目標や過程、成果を十分に把握、評価し、適切なフィードバックで教えた内容を継続して実施させることにより一層教育効果が高まることとなります。



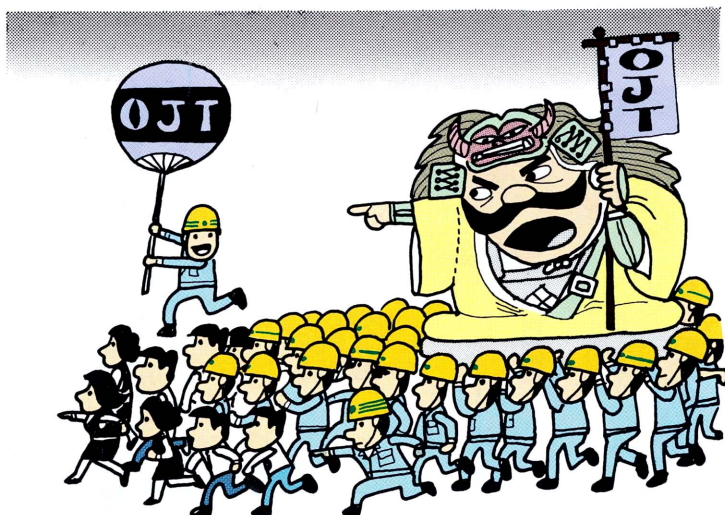
㊦

## 4. 社内におけるOJTの 取り組み方【OJT実施体制づくり】

全社的に統一した考え方や方法で進めることが大切

現場（または事業場）におけるOJTの進め方に入る前に、OJTをより効果的に行うために、社内におけるOJTの取り組み方について触れておきます。

OJTは、現場だけに限ったものではなく、全社的に統一された考え方や方法で進めることが大切であり、特にその目的や推進組織・責任体制等を明確にしておくことが必要です。



全社的に統一した考え方で、

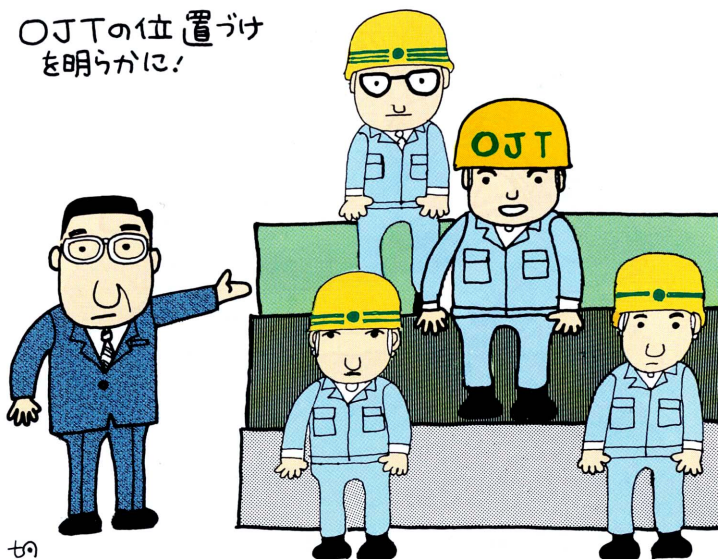
10

## ①実施方針の 明確化

OJTの実施に際しては、まず経営トップがOJTを実施するという方針・目的を明確に打ち出し、指導者に認識させることが大切であり、自社内教育訓練体系におけるOJTの位置づけを明らかにすることが必要です。そのためには、OJT実施推進組織体制等を定め（例えばOJT統括責任者、実施責任者等の選任……業務ラインに即したほうが効果的）、目標達成後のフォロー体制（評価、処遇等）も十分に考慮し、全社的に推進することです。

また、OJTは一時的一過性のものではなく、段階的かつ継続的な実施を明らかにすることも必要です。

OJTの位置づけ  
を明らかに！



79



## ② 自社内技能レベルの設定

現場でのOJTを推進するためには、自社の規模、特性等を考慮し、自社内の技能の目標水準となる技能レベルを段階的に設定することです。

巻末に資料として、業種別に技能レベルを例示してありますので、参考にしてください。

自社内技能レベルを設定することにより、個人別の目標水準が設定しやすくなり、自社にあったOJTを展開することができます。

なお、自社内技能レベルについては、OJTのみならず、集合教育（off-JT）にも活用できるように作成すると便利でしょう。





### ③実施要領の 作成

OJT実施体制が決まった後、実際にOJTを実施する場合、職長がマチマチの考え方、やり方では効果にバラツキが生じます。そこで、自社内のOJT実施要領を作成し、OJTの考え方、やり方について最小限統一しておく必要があります。

OJT実施要領については、自社の実情を加味し、分かりやすいようにできるだけ平易に作成することが大切です。



#### ④年度実施計画 の作成

実施要領に含めて、企業全体の年度ごとのOJT実施計画(できれば3年間ぐらいの中期計画も)を作成することも必要です。ここでは、具体的なOJT実施者、対象者、実施期間(年、期、月)等を定めます。



# 5. 現場におけるOJTの進め方

部下の能力を把握し、できるだけやる気を出させることが必要

## ①目標の設定

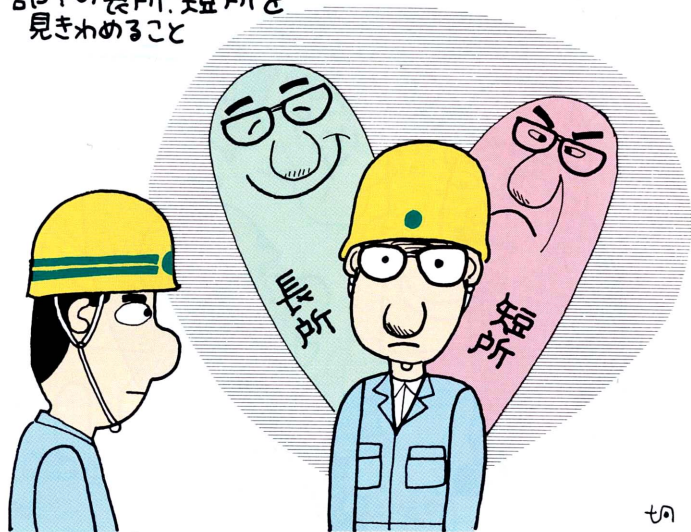
職長は、まず、現場（または事業場）ごとに作業員それぞれの技能レベルを把握し、個人別に当面（1年程度）の目標の設定を行います。

### ▶目標の設定の仕方◀

#### ・部下の能力の把握

部下の能力を把握し、特に経験内容や、長所、短所を見きわめることが大切です。

部下の長所、短所を見きわめること



70

・部下との意見調整

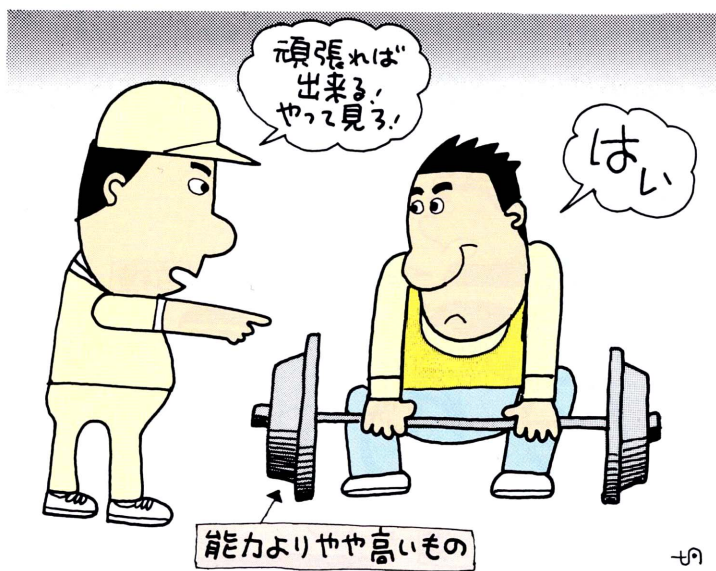
できるだけ部下の希望に沿うようにして、やる気を出させる  
必要があります。



76

・目標の捕え方

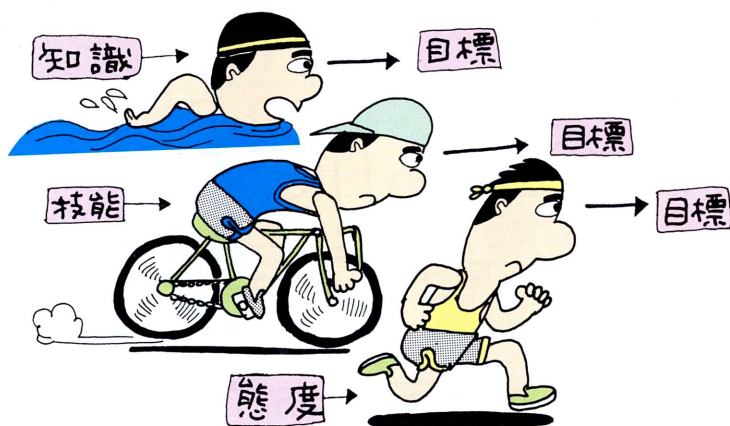
部下の能力より、やや高い程度のを、具体的・实际的に、明確に設定することです。



### ・要因別目標の設定

人間の行動が、知識、技能、態度の三つの要因からなることからそれぞれの要因別に目標を設定することも必要です。

それぞれ目標を設定





## ②育成の手順・ 方法

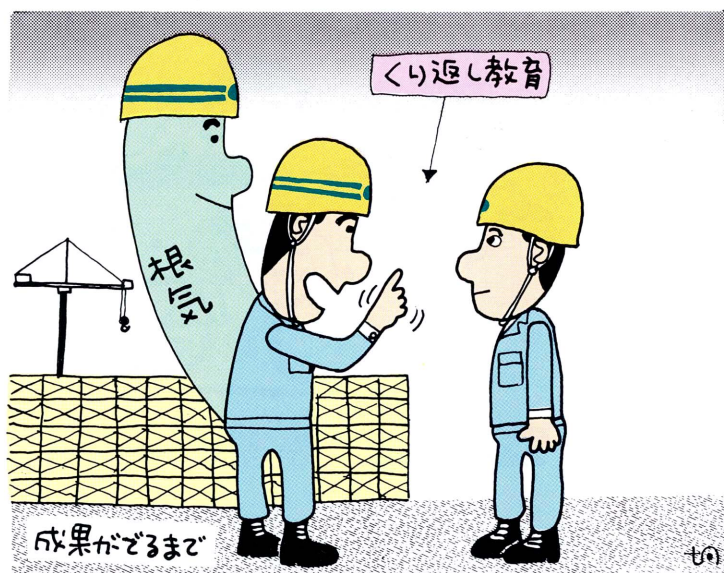
目標が定まったら、教育方法を決め、35ページの**個人別OJT実施計画表**を有効に活用しながら、目標に向かって個人別に指導することになります。その目標が達成できれば、さらに次の段階の目標へと進めていくことになります。

教育方法については、「3.OJTの進め方」の④(15ページ)を参考にしてください。

### ▶個人別OJT実施計画表の作成 の仕方◀

1. 職長が作業員に対して、一定期間(1年等)を対象として現場(または事業場)単位で行う場合に作成するものです。
2. OJTは、直用技能作業員を中心に行ってください。
3. 巻末の資料の業種別技能レベルの事例を参考にして、技能アップを重点に目標水準を設定してください。
4. 巻末の資料の業種別記入例を参照して計画表(氏名欄～職長コメント欄まで)を作り、教育実施後、成果欄に記入し、問題点等のフォローを実施してください。

成果がでるまで、くり返し教育する必要があります。また、個人別OJT実施計画表については、自社内で使用しやすいように創意工夫し、活用して下さい。



個人別OJT実施計画表

| 氏名 | 年齢<br>経験 | 目標水準<br>(知識・技能・態度) | 現 状<br>(知識・技能・態度) | 方 法 | 職 長<br>コメント | 成 果 | フォロー |
|----|----------|--------------------|-------------------|-----|-------------|-----|------|
|    |          |                    |                   |     |             |     |      |
|    |          |                    |                   |     |             |     |      |
|    |          |                    |                   |     |             |     |      |
|    |          |                    |                   |     |             |     |      |
|    |          |                    |                   |     |             |     |      |
|    |          |                    |                   |     |             |     |      |

- (注) 1. 職長が作業員に対して、一定期間(1年等)を対象として現場(または事業場)単位でOJTを行う場合に使用して下さい。
2. OJTは直用技能作業員を中心に行って下さい。
3. 巻末の資料の業種別技能レベルを参考にして、技能アップを重点に目標水準を設定して下さい。
4. 巻末の資料の業種別記入例を参照して計画表(氏名欄～職長コメント欄まで)を作り、教育実施後、成果欄に記入し、問題点等のフォローを実施して下さい。



## 資 料

### 業種別技能レベル・個人別OJT実施計画表事例

|       |    |
|-------|----|
| 鳶工    | 38 |
| 土工    | 41 |
| 型枠工   | 43 |
| 建築塗装工 | 45 |
| 配管工   | 49 |
| トンネル工 | 51 |
| 鉄筋工   | 54 |

# 高工の技能レベル【A社の例】

| ラ ン ク             | 技 能 し れ べ る                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 作 業 内 容 等                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新 手 元             | <b>基礎知識の修得</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工具、材料、機械類の名称が分かる</li> <li>2. 各種の工具、材料の使い分けができる</li> <li>3. 現場の雰囲気・用語を知り、指示が理解できる</li> <li>4. 安全基準が分かる</li> <li>5. 高工としての相番ができる</li> <li>6. 仮囲等、地上作業は組込ができる</li> <li>7. 簡易足場（枠組、単管）で繰り返し作業の組込ができる</li> </ol>                                                                                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 玉掛け作業、軽微なガス切断、溶接作業、巻き上げ機運転業務</li> <li>2. 枠組足場、単管足場の組込相番作業</li> <li>3. 作業に合わせた資材の準備</li> <li>4. 安全施工作業（安全基準の励行）</li> <li>5. 作業主任者の元で、簡易（繰り返し）作業で変化の少ないもの）足場の相番と組込</li> <li>6. 地上作業（仮囲い、手摺）の段取と組込</li> <li>7. 手元作業全般</li> </ol> |
| 技能工Bクラス<br>(2～3年) | <b>一般高工作業に関する技能の修得</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資機材の知識が十分あり、使用方法や用途の選択ができる</li> <li>2. 作業主任者の元で作業内容を理解し、変化に対応して作業ができる</li> <li>3. 作業標準の手順が理解でき、その手順に合わせた作業ができる（安全基準を理解している）</li> <li>4. 安全対策を講じて作業ができる</li> <li>5. 工程と人員の関係が分かり、職長と作業内容に合わせた打ち合わせができる</li> <li>6. 簡易クレーンの操作および組込の相番ができる</li> <li>7. 鉄骨建方、山留工事等の重量高工事の相番ができる</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 足場の組込作業</li> <li>2. アーク溶接、ガス溶接作業</li> <li>3. 土止め支保工作業</li> <li>4. クレーン、移動式クレーン、建設用リフト運転業務</li> <li>5. 鉄骨建方合番作業</li> </ol> <p>（各種、作業主任者の資格の取得）</p>                                                                             |
| 技能工Aクラス<br>(4～5年) | <b>全高工作業に関する技能の修得（施工難度の低いもの）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 形状のすっきりした建物の高工事全般の段取、</li> </ol>                                                                                                                                                                                                                                             | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 足場作業主任者あるいは代理作業</li> </ol>                                                                                                                                                                                                    |



|                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>職 長</b><br/>(6年～)</p> | <p>計画、打ち合わせができる (山留、足場、鉄骨、簡易揚重機)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>見積り、積算の打ち合わせができる</li> <li>工程、人員の把握ができる</li> <li>安全対策を含んだ施工計画に参画できる</li> <li>施工に合わせた作業標準が作成できる</li> <li>作業員を掌握できる</li> <li>鉄骨建方、山留工事等の重量嵩工事の段取、施工指示が行える</li> <li>タワークレーン等、大型揚重機の建方解体作業の段取ができる</li> </ol> <p><b>全般作業に関する技能の修得</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>形状の変化に富む建物の嵩工事、全般の段取、計画、打ち合わせができる (山留、足場、鉄骨、揚重機)</li> <li>見積り、積算ができ、予算の打ち合わせができる</li> <li>予算、工程に合わせた施工改善ができる</li> <li>自主的な安全活動ができる</li> <li>作業員を掌握できる</li> <li>施工方法の決定を行い、その作業標準書が作成できる</li> <li>他職の施工内容により、架設工事の予測ができ、施工調整や打ち合わせができる</li> <li>10億円程度までの現場は、十分管理ができる</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>鉄骨建方等作業主任者あるいは代理作業</li> <li>クレーン運転業務のうち一種以上の免許業務あるいは代理作業</li> <li>安全、衛生管理者業務</li> <li>土止め支保工作業主任者業務</li> <li>職長としての打ち合わせ、あるいは代理業務 (建築施工管理技士の取得) (二級建築士の取得)</li> <li>見積り、積算業務</li> <li>部下の教育、指導</li> </ol> |
|                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <ol style="list-style-type: none"> <li>足場作業主任者、鉄骨建方等作業主任者、一種クレーン業務、土止め支保工作業主任者等、嵩工事全般の責任者としての業務</li> <li>予算、工程管理をふまえた打ち合わせ業務</li> <li>見積り、積算業務</li> <li>部下の教育、指導</li> <li>品質管理業務</li> <li>安全、衛生管理業務</li> <li>作業標準書の作成 (一級建築士の取得)</li> </ol>      |

個人別OJT実施計画表【薦工例】

| 氏 名  | 年齢・経験   | 目 標 水 準<br>(知識・技能・態度)                                           | 現 状<br>(知識・技能・態度)                                                    | 方 法                          | 職長コメント                    | 成 果                           | フォロー                                                                                                   |
|------|---------|-----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|------------------------------|---------------------------|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Y. S | 19歳(1年) | (知)薦工事の全般的業務内容を知る<br>(技)薦工事の手元ができる<br>(態)指示をよく聞こうとする            | (知)薦工事の一部を知っている<br>(技)指示がないと分からない<br>(態)研究心があり温厚                     | 熟練者と組ませる<br>班長が特訓をする         | 経験不足                      | 自主的に手元としての段取りができる             | <ul style="list-style-type: none"> <li>資機材の資料を与える</li> <li>全体図を知らせる</li> </ul>                         |
| K. N | 21歳(3年) | (知)他職作業に合わせた架設工事が考えられる<br>(技)自ら架設工事ができる<br>(態)リーダー補としての部下の信頼を得る | (知)薦作業については、全般的によく分かっている<br>(技)主任者の元では薦全般作業がほぼできる<br>(態)部下への思いやりが少ない | 職長代行をやらせる<br>班長として一部の作業をまかせる | 一般的薦作業の知識はあるが、計画性や指導性に欠ける | 自主的な施工方法が考えられる<br>(他職の作業が分かる) | <ul style="list-style-type: none"> <li>職長教育を受けさせる</li> <li>打ち合わせに参加させる</li> <li>資格を取らせ自覚させる</li> </ul> |

# 土工の技能レベル【B社の例】

| ランク                                         | 技能レベル                                                                                                                                      | 作業内容等                                                                                                                        |
|---------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新<br>作<br>業<br>人<br>員<br>(手<br>元)<br>(1～2年) | 基礎知識の修得 (職長について作業手順の修得)<br>1. 建築現場の雰囲気を知る<br>2. 各種の工具、材料等の名称を知る<br>3. 各種の工具、材料等の操作ができる<br>4. 他職種との相番ができる<br>5. 指示されたことができる                 | ※資格の取得<br>・ 玉掛技能講習<br>・ 巻き上げ機運転業務                                                                                            |
| 一般作業員<br>(世話役)<br>(3年以上)                    | 一般作業に関する技能の修得(作業主任者の資格の取得)<br>1. トランシット、レベルがみられる<br>2. 工程を理解できる<br>3. 工法を理解できる<br>4. 関係職種との現場での打ち合わせができる<br>5. 安全対策が講じられる<br>6. 作業員の掌握ができる | (上記取得後)<br>・ 地山掘削作業主任者<br>・ 土止め支保工作業主任者<br>・ 酸欠欠乏危険作業主任者<br>・ 職長教育<br>・ クレーン、移動式クレーン、建設用リフト運転業務<br>・ アーク溶接、ガス溶接<br>・ 車輻系建設機械 |
| 熟練工<br><br>多能工                              | 経験7年以上、資格取得数2種以上 (職長、玉掛)<br>指示されなくても作業ができる<br>経験7年以上、資格取得数3種以上<br>(職長、玉掛、地山、土止め)<br>簡単な型枠、鉄筋、その他ある程度の技術を要する仕事ができる                          |                                                                                                                              |
| 職<br>長<br>(7年以上)                            | 全般作業に関する技能の修得<br>(統率力、処理能力、折衝力、作業員管理、問題の解決)<br>1. 施工要領書の作成ができる<br>2. 工程管理ができる<br>3. 工法管理ができる                                               | (上記取得後)<br>・ 足場組立等作業主任者<br>・ 鉄骨組立等作業主任者<br>・ クレーン運転業務のうち1種以上の免許<br>・ 建築施工管理技士                                                |

| ランク | 技 能                                          | レ ベ ル | 作 業 内 容 等                                                                                         |
|-----|----------------------------------------------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | 4. 自主検査ができる<br>5. 安全衛生管理ができる<br>6. 全般の図面が読める |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリート技士</li> <li>・土木施工管理技士</li> <li>・安全、衛生管理者</li> </ul> |

個人別OJT実施計画表【土工例】

| 氏 名  | 年 齢・経 験  | 目 標 水 準<br>(知識・技能・態度)                                             | 現 状<br>(知識・技能・態度)                                                      | 方 法                                                      | 職 長 コ メ ン ト                          | 成 果                                     | フ ォ ロ ー                                   |
|------|----------|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------------|
| S. E | 38歳(18年) | (知)知識豊富につき、<br>トレナーの修得<br>(技)建築施工管理技士<br>の会得<br>(態)早合点する一面を<br>直す | (知)研究熱心で全般の<br>知識が優れている<br>(技)他職工事を熟知す<br>る<br>(態)温厚で作業場では<br>リーダーを務める | 大型工事に<br>は必要な人材<br>で、できるだ<br>け大型工事に<br>参加させ、実<br>践をつまませる | (工事部長より)<br>研究熱心で<br>元方には絶大<br>の信用あり | 現場職長と<br>して活躍中<br>建築施工管<br>理技士の資格<br>取得 | ・技術面にお<br>いて、さら<br>に上のラン<br>クの仕事を<br>与える  |
| T. D | 29歳(9年)  | (知)他職工事の修得<br>(技)コンクリート打込<br>技術のレベルアッ<br>プ<br>(態)積極性および管理<br>面の会得 | (知)全般的な知識はま<br>だ浅い<br>(技)資格取得の意欲有<br>り<br>(態)真面目で、責任感<br>が強い           | ミーティン<br>グ時にできる<br>だけリーダー<br>シップを取ら<br>せる                | 雑および改<br>修工事には欠<br>かせない人材<br>である     | 他職工事に<br>ついては、か<br>なり知識を得<br>た          | ・今後は中型、<br>大型現場に<br>派遣し、リ<br>ーダーを取<br>らせる |

# 型枠工の技能レベル【C社の例】

| ランク                | 技能                                                                                                                                                         | レベル | 作業内容等                                                                                                                                                      |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新<br>手<br>元        | 基礎知識の修得<br>1. 工具・材料等の名称<br>2. 番付けの読み方<br>3. 支保工等材料の使用方法                                                                                                    |     | (単独作業) 材料運搬が主<br>(指定された材料等を指定された場所へ運搬)<br>(合番作業) 簡単な支保工の組立<br>簡単な部分の型枠の建込み                                                                                 |
| 技能工Cクラス<br>(3年以上)  | 基礎技能の修得 (一般技能工)<br>1. 簡単な図面が読める<br>2. 簡単な番付けができる<br>3. 簡単な部分の加工ができる<br>4. 簡単な部分の建込みができる                                                                    |     | 簡単な部分の建込み作業<br>資材の配置<br>パイプ締め作業<br>柱・梁・壁建込み合番                                                                                                              |
| 技能工Bクラス<br>(5年以上)  | 一般作業に関する技能の修得 (班長レベル)<br>一般作業について判断できる能力<br>1. 通常の図面が読める<br>2. 測量・墨出しができる<br>3. 通常の番付け、拾い出しができる<br>(加工帳の作成)<br>4. 通常の建込みができる<br>5. 工程を理解できる<br>6. 工法を理解できる |     | 通常の建込み作業<br>柱・梁・壁建込みおよび建入チェック<br>資格の取得 (二級技能士、玉掛等)<br>スラブ段取、スラブ張り<br>壁際に必要なレベル、トランシットの操作ができる<br>(注) 実際に部下を持ち、班長になれるのは10人に1人ぐらい。技能はあっても人を使えなければ、班長・職長にはならない |
| 技能工Aクラス<br>(10年以上) | 全般作業 (含特殊ケース) に関する技能の修得 (職長レベル)<br>特殊ケースが判断できる能力<br>1. 型枠寸法図の作成<br>2. 施工要領書の作成<br>3. 工程管理ができる<br>4. 工法管理ができる<br>5. 自主検査ができる                                |     | 全般的建込み作業 (含特殊ケース)<br>階段現寸型枠組<br>特殊型枠下桁へ取付<br>支保工計画および作業員の管理<br>柱・梁拾い出し作業<br>生産性 (歩掛り) の把握および工程打ち合わせ、調整<br>資格の取得 (一級技能士、型枠支保工作業主任者)<br>職長教育の受講              |



個人別OJT実施計画表【型枠工例】

| 氏名   | 年齢・経験    | 目標水準<br>(知識・技能・態度)                                             | 現 状<br>(知識・技能・態度)                                                                                                              | 方 法                                              | 職長コメント                                                | 成 果              | フォロー                                                              |
|------|----------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|------------------|-------------------------------------------------------------------|
| S. T | 56歳(30年) | (知)通常の図面が読めるようにする<br>(技)階段建込みができるよう歩掛りができるようにする<br>(態)協調性をもたせる | <ul style="list-style-type: none"> <li>・墨出しおよび測量はできる</li> <li>・階段建込みはできるが、歩掛りがいい一歩である</li> <li>・作業態度は良いが、一人よがりの点もある</li> </ul> | 高齢になっているので若い者と組ませる<br>ミーティング時に実情をよく話して納得させ協調を求める | 作業内容を検討して高所作業はできるだけさけるように配慮する<br>制度を必要とする小作業に重点的に配置する | 協調性が出て、面倒見がよくなった | <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに技能アップをする</li> </ul>    |
| M. E | 46歳(29年) | (知)拾い出しができるようにする<br>(技)現寸矩形が書けるようにする<br>(態)全体を掌握し工程管理ができるようになる | <ul style="list-style-type: none"> <li>・寸法違いが出る</li> <li>・極細い部分ができない</li> <li>・資材の段取と工事の省力化のバランスがとれない</li> </ul>               | 検算とチェック<br>集中力を持続<br>計画とデータを頭に入れる                | 1フロアあたり2～3間違いが出る<br>一級技能士を取得すること<br>手順と信念を持って仕事をさせる   | 拾い出しができるようになった   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに全体の工程管理をさせる</li> </ul> |



# 建築塗装工の技能レベル【D社の例】

| ラ ン ク                     | 技 能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 作 業 内 容 等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 年 (養成工) 手元<br>(訓練期間)    | <p>専門的基礎知識の修得(初級) (職長について作業手順を学ぶ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築現場の雰囲気・部位の名称を学ぶ</li> <li>2. 機械・器具・工具の名称および取扱いを覚える</li> <li>3. OP・EP の下塗、使命と塗装技法</li> <li>4. 塗料の種類・名称を覚える</li> <li>5. 塗装・デザインを指導</li> </ol>                                                                                                                                                        | <p>材料運搬・塗り前清掃 (モルタル・コンクリート面)・床養生</p> <p>機器・工具の手入れ (スプレーガン・サンダー・マザール程度)</p> <p>(不透明仕上) 広場面の OP・EP の下塗作業</p> <p>ペーパー当て、素地のみ (手による研磨法)</p> <p>塗料の適合希釈剤とかく拌法</p> <p>色彩感覚 (マンセル記号・文字)</p> <p>(不透明仕上) 簡単な役ものを含む OP・EP の中途作業</p> <p>OP は手摺・戸棚・屋根など、EP は小壁程度 (刷毛・ローラー)</p> <p>(透明仕上) 塗りこみ・拭き取り</p> <p>チリ際の養生テープ張り・簡単な養生紙による養生</p> <p>ペーパー当て、パテ面および塗り前 (平滑面)</p> <p>各種刷毛・ローラーの使い分けと長柄の使用</p> <p>刷毛塗り・ローラー塗り・吹付け仕上などによる濃度の違いを危険物として保管方法・取扱いを熟知させる</p> <p>安全対策が取れるように発言させる</p> <p>吹付け機械および機器の取扱い、使用方法をマスターさせる</p> |
| 2 年 (養成工) 手元<br>(訓練期間)    | <p>専門的基礎知識の修得(中級)、基本的技術・技能の修得 (職長・作業担当について作業手順と初歩の塗装工法)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. OP・EP の中途、使命と塗装技法</li> <li>2. OP・EP の小面積の上塗作業</li> <li>3. オイルステイン (油性のみ)</li> <li>4. 養生の必要性と養生方法</li> <li>5. 研磨の必要性と研磨方法</li> <li>6. 刷毛・ローラーの種類と塗装技法</li> <li>7. 塗料のかく拌と濃度</li> <li>8. 有機溶剤 (危険物) の取扱い</li> <li>9. 危険予知訓練 (KYK) に参加</li> <li>10. コンプレッサー・吹付け機器の取扱い</li> </ol> | <p>各下地材の素地ごしえと下地修正技術</p> <p>(不透明仕上) 厳しい条件でも高品質を確保する技法を得る</p> <p>(透明仕上) 各種着色工法およびクリヤーラッカー・ワニス仕上</p> <p>ラフな吹付け作業 (リシン・外装タイルなど)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 3 年 (養成工) 技能工扱い<br>(訓練期間) | <p>専門的基礎知識の修得 (上級)、基本的仕上技術・技能の修得</p> <p>(一般技能工に伍して作業全般の知識・技能を吸収させる、指導者は職長・作業担当者)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 素地ごしえと素地調整</li> <li>2. OP・EP の上塗の使命と塗装技法</li> </ol>                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

| ランク                                  | 技 能 し べ ル                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 作 業 内 容 等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 技 能 工<br>(研修生)<br>(養成期間終了)<br>(4～5年) | 3. 生地仕上塗りの修得<br>4. 吹付け塗装工法の修得<br>5. パテ技術の修得 (へら木・こて)<br>6. 機能別塗料の選択<br>7. 有機溶剤・危険物の危険度と保安対策<br>8. 調色技術と調合技術の修得<br>9. 検査機器の取扱い<br>10. 塗装の仕様と積算<br><b>一般建築塗装技能工として (基礎から応用作業に)</b><br>1. OP・EP 仕上を基礎として他の塗料の仕上技<br>法を修得する<br>2. 吹付け作業 (ラフ→ち密肌施工)<br>3. 生地仕上 (透明仕上)<br>4. 外装塗材ローラー塗り<br>5. 施工管理の基礎知識<br>6. 足場関係の操作と架組 | へら木・こてによるパテ付けおよび水研ぎ<br>耐薬品・耐熱・防音・防カビ・殺虫・放射線防御・蛍<br>光・反射密室作業など保安対策が完全に取れるよう<br>見本・在来色と色合わせができる<br>含水計・PH 測定・膜厚測定 of 機器が取り扱える<br>材料・副資材・労務費が積算できる<br>フタル酸樹脂・アクリル樹脂・塩化ビニル・塩化ゴム・<br>エポキシ系・フッ素樹脂など<br>ラッカー吹付け・多彩模様吹付けなど<br>高度ステイン各工法およびアクリル・ウレタン・フッ<br>素樹脂など厚膜型塗材のローラー塗装工法<br>品質・原価・行程・安全について<br>ローリングダウナー・ゴンドラ作業・スカイマスカー作<br>業など<br>(資格の取得)<br>二級建築塗装技能士・マスチック・樹脂注入・職長教<br>育など |
| 技 能 工<br>(一般塗装工)<br>(6～10年)          | <b>一般建築塗装技能工として (技能の研さん)</b><br><b>指導者 工事課長・工事部長</b><br><b>塗料メーカー技術者</b><br>1. 塗装工法の選択能力<br>2. 他職との作業関連を熟知する<br>3. 安全対策が講じられる<br>4. 塗料を理論的に選択ができる<br>5. 施工計画の知識と作成能力                                                                                                                                               | <b>特殊塗装技法の修得</b><br>1. アンチック塗装法<br>2. オイルフィニッシュ塗装法<br>3. 石もく描き (大理石模様塗り)<br>4. もく目描き (木のもく目描き・塗り)<br>5. 木材着色法各種<br>6. 木材漂白法<br>7. ラフコート仕上                                                                                                                                                                                                                                  |

|                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>技 能 工 職 長<br/>(熟練工)<br/>(10年以上)</p> | <p>6. 施工図面が読み取れる<br/>7. 部下を指導・統率する能力<br/>8. 塗装関連職種の技能を修得</p>                                                                                                                                                                                                                                                              | <p>8. 芥洗い・石洗い<br/>(資格の取得)<br/>講習会の受講を推進し資格取得に積極的に協力<br/>一級塗装技能士・二級塗装技能士<br/>危険物取扱主任者・酸素欠乏危険作業主任者<br/>有機溶剤作業主任者・ゴンドラ特別教育<br/>職長教育・研削といしの取替え等の業務<br/>玉掛技能者・鉛作業主任者・職業訓練指導員<br/>技術として参考塗装工法 (日本の塗装原点)</p> |
|                                        | <p>全般作業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築工事全般の知識：他職の作業が読め、打ち合わせをし、実行できる</li> <li>2. 技術指導能力：作業員を掌握し、被塗装物の保護・美装・機能の品質を確保する</li> <li>3. 施工管理能力：積極的に品質・原価・工程・安全・人の管理ができる (期中・竣工時の自主検査を含む)</li> <li>4. 安全衛生管理能力：事前対策が安全・健康面で読み取れ、対処できる</li> <li>5. 特殊塗装の修得：作業内容欄参照</li> <li>6. 折衝能力：施主・得意先との打ち合わせ・折衝</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発色法 (銅板の緑青)</li> <li>2. 漆塗り技法</li> <li>3. 神社・仏閣 (漆・莘仕上げ)</li> </ol>                                                                                         |

個人別OJT実施計画表【建築塗装工例】

| 氏名   | 年齢・経歴       | 目標水準<br>(知識・技能・態度)                                              | 現 状<br>(知識・技能・態度)                                                            | 方 法                              | 職長コメント                                      | 成 果              | フォロー                                    |
|------|-------------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------------|------------------|-----------------------------------------|
| N. K | 17歳 (2年9ヶ月) | (知) 塗ってあれば良いのではなく、流れ・垂れ・刷毛目・チリ際の美の追求<br>(技) チリ際の線の出し方技能不足       | 東北人特有の粘りあり<br>(知) OP・EP が分かる程度<br>(技) 丁寧な施工精度を指導中、精度が分かってきた<br>(態) 真面目、教えを聞く | 刷毛・ローラーの使い方の選択について指導             | 元気のある朝の挨拶がほしい。疑問な点は質問し、納得しての作業をするように指導したい   | 教育課程を越す技能を修得している | ・出入口建具・枠のSOP塗りに向けると覚える                  |
| Y. O | 18歳 (3年9ヶ月) | 技能修得に意欲的な男、将来有望な作業が早いより、綺麗な仕事にと指導中<br>仕事が楽しい模様でさらに高度な技能を身につけさせる | (知) 寮生活をし布団の中でも本を読む向学心旺盛<br>(技) 一般技能士に伍していきたいことで、気に焦りあり<br>(態) 真面目ながら早合点する   | 有機溶剤・酸素欠乏の資格取得を促す<br>高級住宅工事に配属する | 雑な仕事が生身につくと神経を使う仕事ができなくなるので、高級現場に向け技術を磨かせたい | 教育課程を越す技能を修得している | ・ラッカー工事・FPなどのダミ分け作業に向ける (精度追求の神経を使う作業に) |

# 配管工の技能レベル【E社の例】

| ラ ン ク              | 技 能 し べ る                                                                                                                                                                      | 作 業 内 容 等                                                                                                                                                            |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新 手 元              | 基礎知識の修得<br>1. 工具・材料の名称が分かる<br>2. 簡単な工具の操作ができる<br>3. 簡単な継手接合およびスリーブ入れができる                                                                                                       | (単独作業) 材料運搬が主<br>指定された材料を指定された場所へ運搬<br>①旋盤等のネジ切り操作                                                                                                                   |
| 技能工Cクラス<br>(3年以上)  | 基礎技能の修得 (一般技能工)<br>1. 簡単な図面が読める<br>2. 設備工事分野の理解<br>3. 工具全般の使用操作ができる<br>4. 簡単な配管作業ができる                                                                                          | ①簡単な寸法どおりおよび管類の組み立て作業<br>(注) 1 東京都上・下水道局技能者および、労働省の<br>二級配管技能士検定の受験資格(実務経験 3年)<br>を有する                                                                               |
| 技能工Bクラス<br>(5年以上)  | 一般作業に関する技能の修得 (班長レベル)<br>一般作業について判断できる能力<br>1. 通常の図面が読める<br>2. 計測、墨出しおよび目地割ができる<br>3. 工程を理解できる<br>4. 工法を理解できる<br>5. 関係職種との現場での打ち合わせができる<br>6. 関係業法を50%程度理解できる<br>7. 器具の取付けができる | ①通常の材料どりができる<br>②施工図の実践配管(配管等の目的別理解度80%程度)<br>(注) 2 実際に部下を持ち、班長になれるのは10人に<br>1人ぐらいいである。技能はあっても、人を使え<br>なければ班長・職長にはなれない                                               |
| 技能工Aクラス<br>(10年以上) | 全般作業 (含特殊ケース) に関する技能の修得 (職長レベル)<br>特殊ケースが判断できる能力<br>1. 施工計画書の作成<br>2. 工程管理ができる<br>3. 工法管理ができる<br>4. 自主検査ができる<br>5. 簡単な積算技術の修得                                                  | ①全般的な材料どりができる<br>②施工管理上の立案に参画<br>③施工図の実践配管(配管等の目的別理解度80～100%程度)<br>(注) 3 労働省の一級配管技能士検定の受験資格につ<br>いては、二級取得後5年、あるいは実務経験の<br>みならば、12年要する<br>(注) 4 10年以上の取得度については、個人差で左右 |



| ランク | 技 能 準 則                                 | ベ ル | 作 業 内 容 等 |
|-----|-----------------------------------------|-----|-----------|
|     | 6. 簡単な作図技術の修得<br>7. 関係業法を80～100%程度理解できる |     | される       |

個人別OJT実施計画表【配管工例】

| 氏 名  | 年 齢・経 験                   | 目 標 水 準<br>(知識・技能・態度)                                                                                                     | 現 状<br>(知識・技能・態度)                                                                                                    | 方 法                                                                          | 職 長 コ メ ン ト                                                          | 成 果                        | フ ォ ロ ー                                            |
|------|---------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|----------------------------|----------------------------------------------------|
| S. H | (配管工)<br>24歳・3年<br>(御嶺校卒) | (知)施工図が読める資材<br>選択ができるように<br>する<br>(技)全般的な配管がで<br>き、技能士資格を<br>取得する<br>(態)積極性の養成、お<br>よび現場での打ち<br>合わせができるよ<br>うにする         | (1)図面より正確な施工<br>プランを立てる能力<br>が雑である<br>(2)積極性に欠け、現場<br>にて関係職とのコミ<br>ュニケーションが少<br>ない                                   | (1) (職長のアド<br>バイス)<br>月2回の反省会にて各<br>現場との情報交換<br>(2)担当現場とし<br>て責任を持たせる        | 技能面での<br>不足はないが、<br>現場内での人<br>とのつながりが<br>悪い                          | 図面が理解<br>できるようにな<br>った     | ・現場内での<br>打ち合わせ<br>に積極的に<br>参加させる                  |
| F. W | (配管工)<br>21歳・3年<br>(高校中退) | (知)施工図が読めて資<br>材の拾い出しがで<br>きるようにする<br>(技)指示のあった通り<br>配管作業ができる<br>ようにする<br>(態)打ち合わせ、指示<br>事項の確認と報告<br>が完全にできて、<br>事務処理が正確に | (1)図面の数字に対して<br>正確に取り組んでい<br>ない<br>(2)作業準備、材料・継<br>手の前日の調べが確<br>実でない<br>(3)現場に対しての取り<br>組み方に誠意がない<br>作業に対する興味が<br>薄い | (1)仕事を通じ<br>ての人格形<br>成に心がけ<br>る<br>(2)社会人とし<br>ての教養を<br>積み特に礼<br>節を身につ<br>ける | 現場を清潔<br>にするという<br>清掃片付けの<br>信念に欠けて<br>いる<br>安全管理の<br>真意を理解し<br>ていない | かなり正確<br>に作業ができ<br>るようになった | ・前日の打ち<br>合わせを入<br>念に行い、<br>現場に対す<br>る責任感を<br>持たせる |



|  |  |                      |  |  |  |  |  |
|--|--|----------------------|--|--|--|--|--|
|  |  | できるよう、けじめのつく人間に成長させる |  |  |  |  |  |
|--|--|----------------------|--|--|--|--|--|

## トンネル工の技能レベル【F柱の場合】

| ラ ン ク           | 技 能 し べ る                                                                                                                                                                                                                                | 作 業 内 容 等                                                                                                                                                                                     |
|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 年 (養成工) 手元    | <p>専門的基礎知識の修得<br/>(職長について作業手順を学ぶ)<br/>(一般技能工とともに作業)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. トンネル現場の雰囲気、各個所の名称を学ぶ</li> <li>2. 機械、器具、工具の名称および取扱い</li> <li>3. 発破作業の補助</li> <li>4. 安全関係の知識</li> <li>5. コンクリート関係の訓練</li> </ol>          | <p>削岩機の手元を準備の時に作動訓練する<br/>削孔、装薬は手元をする<br/>NATM 工法にては吹付けの手元、諸機具の整備をする<br/>コンクリート打設の補助作業をする<br/>(資格の取得)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発破技士</li> <li>・火薬類取扱保安責任者 (甲・乙種)</li> </ul> |
| 2 年 (養成工) 手元    | <p>専門的基礎知識の修得<br/>基本的技術、技能の修得<br/>(職長、作業担当について作業手順と掘削、コンクリートの技術、技能、一般技能工とともに作業)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. NATM の施工指針の把握</li> <li>2. NATM 工法の吹付け作業</li> <li>3. コンクリート関係 (セントルの脱型および組型)</li> <li>4. 車輻系建設機械</li> </ol> | <p>NATM の理論を指導し、吹付用各機械器具の説明をする<br/>吹付作業の実技を実施<br/>セントルの脱型および組型作業を行う<br/>切削機、積積機等の作動および実働をする<br/>安全教育を定期的に実施する<br/>(資格の取得)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車輻系建設機械</li> </ul>      |
| 3 年 (養成工) 技能工扱い | <p>専門的基礎知識の修得<br/>基本的技術、技能の修得<br/>(一般技能工に伍して作業全般の知識、技能を吸収させる、指導者は作業担当者)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在来工法、NATM 工法の修得</li> </ol>                                                                                         | <p>掘削、コンクリートの実技に磨きをかける<br/>NATM 工法の作業中、吹付け、ロックボルトとともに精度の高いものへ移行する<br/>(資格の取得)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・玉掛技能士</li> </ul>                                                    |

| ラ ン ク                           | 技 能 し ベ ル                                                                                                                                                                                               | 作 業 内 容 等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5 年 (技能工 B)<br>一般技能工            | <p>班長としての指示、指導能力（一般技能工として打ち合わせをし指示を受けて自分の持場の判断ができる）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工法を理解し持場の工程を組み、作業量、工程を消化する</li> <li>2. 特殊工法の修得</li> <li>3. NATM、在来工法を問わず実務従事</li> </ol>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トンネル掘削主任者</li> <li>・ トンネル覆工作業主任者</li> <li>・ 酸欠作業主任者</li> <li>・ ガス溶接作業主任者</li> </ul> <p>安全教育の実施<br/>各種資格、免許の取得<br/>工法、岩質を理解し削孔パターンを決めて、持場の工程を組む<br/>作業手順を守り所期の成果を得るよう実働し手元の指導をする<br/>作業主任者として施工、安全の責任者として実働斜坑、堅坑、シールド等の各種工法の習熟、安全関係の行事、ミーティング、KY の実践<br/>職長、作業担当者との打ち合わせ、指示により機械、資材の手配、作業員の番割りをする<br/>生産性を向上し、作業の改善、品質管理を実施する<br/>地山、土質、環境に対する専門的技術による工法、問題解決のための判断と決定に協力<br/>現場、機械、環境の点検と対策<br/>(資格の取得)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二級土木施工管理技士</li> </ul> <p>作業打ち合わせ、施工打ち合わせに参加し作業間調整を図る<br/>作業計画を建て作業手順を決め作業員管理を行う<br/>作業長、班長の業務を統轄管理して現場が円滑に機能するようにする<br/>技術、技能、現場運営のための総合的判断業務</p> |
| 8 年 (技能工 A)<br>特殊技能工<br>あるいは作業長 | <p>複数の作業の管理と指導ができる能力<br/>(班長、作業員をまとめる監督的レベルと専門的技術の対応)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工法、工程を理解し計画を建てて他職、他作業との調整を図る</li> <li>2. 職長の指示を受け機械、資材、人員の手配に参加する</li> <li>3. 特殊工法にも通曉する</li> </ol> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 10 年 (職長)<br>総作業長               | <p>一現場の長としての管理能力 (作業担当者あるいは所長代行として対等に現場の判断、計画ができる)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 所長の指示により見積りをする</li> <li>2. 施工管理、安全管理、工程管理を責任を持って実行する</li> <li>3. 労務管理を含めて作業所の運営に協力する</li> </ol>        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

4. 作業計画を建て、要領書の作成をする  
5. 原価管理を行い与えられた予算で工事を仕上げる

個人別OJT実施計画表【トンネル工例】

| 氏名   | 年齢・経験             | 目標水準<br>(知識・技能・態度)                                                         | 現 状<br>(知識・技能・態度)                                                   | 方 法                                  | 職長コメント      | 成 果          | フォロー                                                                       |
|------|-------------------|----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|-------------|--------------|----------------------------------------------------------------------------|
| I. Y | (トンネル工)<br>21歳・4年 | (知)施工、地質図で検討できるようにする<br>(技)削孔、発破のパターン通りにはできるようにする<br>(態)積極性およびチームワークを身につける | (知)検討できるまでには不十分<br>(技)応用がまだできない<br>岩質の違いの削孔パターンが作れない<br>(態)協調性が足りない | 作業班長が特訓をします<br>熟練者と組ます<br>サブリーダー化を図る | 経験不足としかいえない | 通常のレベルまで上がった | <ul style="list-style-type: none"> <li>目標設定し、熟練者と組ませ、実技に磨きをかけます</li> </ul> |

鉄筋工（現場組立工）の技能レベル【G社の例】

| ラ ン ク    | 技 能 し れ ば                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 作 業 内 容                                                                               | 等 |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 1<br>手 元 | <b>基礎知識の修得</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>鉄筋の種類・径・定尺長さを知る</li> <li>鉄筋の役目を知る</li> <li>建物の構造別種類と部位別による配筋方法の概要を知る</li> <li>建物名称、部位別名称、現場用語、鉄筋専門用語その他名称と意味を覚える</li> <li>工具、機械の取扱い方法を知る</li> <li>結束線の使用方法・種類を知る</li> <li>バーサポート、スペーサーの種類・その目的を知る</li> <li>加工絵符・施工図の見方が分かる</li> <li>安全作業の知識を得る</li> </ol> |                                                                                       |   |
| 2<br>手 元 | <b>基礎技能の修得</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>鉄筋の担ぎ下しができる</li> <li>結束方法（種類別）が分かる</li> <li>部位別配筋組立て方法（手順）が分かる</li> <li>部位別配筋段取方法が分かる</li> <li>工具の使用方法が分かる</li> <li>バーサポート、スペーサーの使い方が分かる</li> <li>安全作業方法が分かる</li> </ol>                                                                                   |                                                                                       |   |
| 2～3年     | <ol style="list-style-type: none"> <li>軀体図、工程表、配筋施工図、実行予算書がみられる</li> <li>加工絵符が作成できる</li> <li>鉄筋工事の流れと他職種との関連が分かる</li> <li>施工記録の作成ができる</li> </ol>                                                                                                                                                                | （資格の取得等） <ul style="list-style-type: none"> <li>玉掛け技能講習</li> <li>ガス溶接技能講習等</li> </ul> |   |

ただし、企業規模等により、3～5年に相当する場合あり

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                              |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| り    | <p>5. 作業標準の改訂ができる</p> <p>6. 施工要領書と設計図との照合ができる</p> <p>7. 設計変更の処理ができる</p> <p>8. 鉄筋足場・配筋用うま等の種別が分かり、作業性・安全性の検討ができる</p> <p>1. 設計図書の解説ができる</p> <p>2. 施工要領書の把握ができる</p> <p>3. 各部位の作業標準の修得</p> <p>4. 労務計画（労務手配）の立案・実施ができる</p> <p>5. 品質計画（QC 工程表）と実行予算との対応、評価ができる</p> <p>6. 検査ならびに評価判定ができる</p> <p>7. 技能指導ができる</p> <p>8. 労務管理ができる</p> <p>1. 設計図書の解説ができる</p> <p>2. 関連職種・ゼネコンとの打ち合わせ業務ができる</p> <p>3. 法定その他提出書類の把握ができる</p> <p>4. サブリーダーとして、リーダーの補助業務ができる</p> <p>5. 小規模・簡単な中規模現場のリーダーとなる</p> <p>(注) 5～7年程度でリーダー（職長）になり得る能力は、個人差が大きい。また、リーダー就任後1～2年間は、上司のフォローが必要であり、フォローいかんにより、その後の本人の成長に影響すること多い</p> | <p>・二級鉄筋施工技能士・二級鉄筋施工図技能士、二級建築施工管理技士等の受験</p> <p>・職長教育</p> <p>・その他各種講習、受験等</p> |
| 3～5年 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                              |
| 4～7年 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                              |

(注) 鉄筋工については、個人別 OJT 実施計画表の事例は掲載してありませんが、他業種の事例を参照して下さい。

## 建設業人材養成推進委員会委員名

【五十音順】

|       |                       |       |                      |
|-------|-----------------------|-------|----------------------|
| 青木 一男 | 青木土木㈱社長               | 高野 伸栄 | 建設省建設経済局建設業課構造改善係長   |
| 飯島 正  | 前・建設省建設経済局労働資材対策室課長補佐 | 花沢 恵一 | 大成建設㈱労務安全全部労務管理室課長   |
| 今井 義治 | (財)建設業振興基金調査指導部参事     | 早川 雅章 | 建設省建設経済局労働資材対策室課長補佐  |
| 奥田 一夫 | 前・建設省建設経済局建設業課課長補佐    | 林 弘己  | 前・大成建設㈱労務安全全部長       |
| 加藤 利男 | 建設省建設経済局建設業振興課金融専門官   | 原田 繁  | 原田建塗工業㈱社長            |
| 川端 修  | 前・建設省建設経済局労働資材対策室労働係長 | 本田弘太郎 | 向井建設㈱労務安全全部長         |
| 倉田善八郎 | 前・(財)建設業振興基金調査指導部次長   | 松本 直之 | (財)建設業振興基金調査指導部長     |
| 斉藤毅八郎 | 青木土木㈱                 | 三浦 真紀 | 前・建設省建設経済局建設業課構造改善係長 |
| 斉藤 陽  | 前・フジ工業㈱土木本部労働部労務安全課長  | 南塚 忠英 | (財)建設業振興基金調査指導部主事    |
| 佐崎 昭二 | (委員長)佐藤工業㈱労務安全全部長     | 向井 敏雄 | 向井建設㈱社長              |
| 鯨島 新二 | ㈱銭高組労務安全課長            | 茂木 宏善 | 大成建設㈱労務安全全部長         |
| 島田 啓三 | 建設省建設経済局建設業課課長補佐      | 横井 正義 | 前・向井建設㈱労務安全全部長       |

## 本冊子作成にご協力いただいた建設業団体および企業名

|                |        |                   |
|----------------|--------|-------------------|
| 全国管工事業協同組合連合会  | 佐藤興業㈱  | (社)日本葦工業連合会       |
| (社)日本建設大工工事業協会 | ㈱佐藤工務店 | (社)日本建設躯体工事業団体連合会 |
| (社)日本塗装工業会     | 成豊建設㈱  |                   |

## 参考文献

|                          |                   |
|--------------------------|-------------------|
| 「部下育成マニュアル」 人事院管理局研修審議室  | 公務研修協議会           |
| 「従業員教育の考え方進め方」 俵 実男      | 日本労働協会            |
| 「OJTの実践マニュアル」 上田 利男      | 日本能率協会            |
| 「新・OJTの進め方」 土井 正己        | 日経連弘報部            |
| 「OJTの実務」 土井 正己           | 日本経営団体連盟          |
| 「OJTの再設計」 山田 博夫          | 産業能率大学出版部         |
| 「改訂版 企業内教育訓練実務便覧」 土井正己 他 | 日本コンサルタント・グループ出版部 |



---

建設現場における OJT マニュアル

財団法人建設業振興基金

〒105 東京都港区虎ノ門 2-6-4  
〔TEL〕 03(501)1471・〔FAX〕 03(591)3159

---

昭和63年6月15日  
頒布価格500円

